

# ひがしっ子

No.15 平成27年3月18日発行 文責 学校長 小笠原哲司

## 一年間、ありがとうございました

本年度も残る授業日数はわずかとなりました。24日(火)に修了式を行い、3月25日(水)からは春休みです。

本年度も保護者や地域の皆様のご支援・ご協力をいただき、充実した教育活動や多彩なPTA行事等を展開することができました。厚くお礼申し上げます。

新学期は、4月7日(火)からのスタートです。

## 卒業記念品として 校舎案内板

今春卒業する6年生と保護者の皆さんから卒業記念品として、本校の校舎や教室の配置を図で示す案内板をいただけることになりました。完成しましたら児童昇降口に設置させていただきます。ありがとうございました。

## 温かい雰囲気「6年生を送る会」

卒業式も3月23日(月)と目前に迫りました。間もなく卒業する6年生と下級生がともに遊び、感謝の気持ちを交わす「6年生を送る会」が3月3日(火)に行われました。



5年生が各教室に工夫を凝らしたゲームを準備し、6年生と下級生が縦割り掃除のグループごとに会場を巡って楽しみました。6年生は最上級生として優しく下級生をリードし、下級生は6年生と一緒にゲームができて楽しそうでした。ほのぼのと心温まる行事でした。

6年生は、3月5日(木)にお別れ遠足も行い、ボウリングや公園での昼食で親交を深めました。

## 5年生が情報モラルの学習

2月17日(火)、5年生は少年補導センターの方を講師に迎え、インターネットの危険性や情報モラルについて学習しました。

同日の高知新聞に、「ブログやツイッターに投稿経験のある人の4人に1人が『悪意のある投稿』をしたことがある」という意識調査結果が掲載されていました。これからネット社会で生きていく子どもたち、インターネットの利便性とともな危険性やモラルの重要性も知ったうえで賢く活用することが大切だと思います。



## 4年生は和紙ちぎり絵を体験

2月26日(木)、4年生は手すき和紙職人・濱田洋直さんを講師に迎え、映像で和紙の作り方を観たり、和紙の原料に触れたりした後、和紙のちぎり絵で模様を描くという体験をしました。



## 学校評価書の報告

「開かれた学校づくり」推進委員の皆さんにいただいた学校評価の要約版を裏面に掲載します。この結果は、来年度の学校の教育計画や重点的な取り組みの立案に活かしてまいります。全文は、本校のホームページでご覧いただけます。

### お詫びと訂正

3月行事案内号②で、幸便を届けてくれている子どもたちを紹介しましたが、6年生の川上晃矢さんの名前が抜かっていました。お詫びして訂正いたします。

平成26年度 学校評価書 [要約版]

※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の4段階。「ア」は「アンケート」の略です。

自己評価				学校関係者評価	
中項目	小項目 (評価指標・具体的な取り組み)	達成状況・改善方策	評価	評価	学校関係者評価
人権教育 平和教育 道徳教育	「思いやりのあるたくましい子」の育成をめざして、児童の善行を褒め、改善されたことを認め、いけないことは毅然と指導する。	Q-Uを活用して学級内の児童の人間関係の把握に努めるとともに、いじめアを毎学期に実施し、望ましい関係づくりに取り組んでいる。児童アでは「友だちと仲良くしているか」の肯定群が昨年度を1.2%上回り98.8%となっている。	A	A	参観日に道徳授業の公開をしたり、人権参観日を実施したりするとともに、いじめ問題に関する教職員研修を行うなどの取り組みが継続できている。今後は、保護者も共に学べる機会を多くして行ってほしい。
体力向上 食育推進	運動のできる環境整備を行う。また、活動量を高める運動方法を取り入れた授業の改善に努める。	児童ア「休み時間に外遊びをしているか」の肯定群が86.8%と昨年より7.8%も向上したが、体力テストの結果は8項目中6項目において全国平均を下回っている。	B	B	体力面では、児童が体を動かす楽しさを感じられるような授業や取り組みの工夫が望まれる。
生徒指導	学校内外での生活ルールの徹底をめざした指導を継続し、落ち着いた生活習慣を確立する。	学校のルールは概ね守られており、学校内は落ち着いた状態。学校外でのトラブルが数件発生した。家庭学習については、95.2%の児童がほぼ毎日できると回答している。	B	B	校外生活については、さらに指導を徹底し、社会のルールを守ることを家庭とも連携して取り組んでほしい。
学力向上	児童に思考の場があり、相互のかかわりや、主体的な活動が展開できる授業づくりについて研究を進める。また学習量の向上を目指した取り組みを行い、学力調査等における「1評定」の児童の減少をめざす。	児童アでは95.6%が「授業がわかる」と回答し、昨年度より0.7%増加。学力調査結果も全学年において全国平均を上回り、6年生ではB問題や記述式問題において伸びが見られた。学校ぐるみで言語能力の育成を図る取り組みの成果。	A	A	「授業がわかる」と回答した児童の割合が3年連続で向上していることは評価できる。学力の定着度には個人差があると思うが、丁寧な個別の学習支援ができています。
不登校対応	毎朝の登校確認と、来ていない児童への働きかけを継続する。また、校内支援会を定期的に開催し、児童と保護者に寄り添った支援を行う。	不登校児童の対応については、家庭への連絡を毎日欠かさず行い、カウンセラーも交えて校内支援委員会を定期的に行い、関係機関とも連携した取り組みを継続している。	A	A	不登校支援についても、関係機関や家庭と連携しながら、きめ細かい対応ができています。
特別なニーズ	関係機関、スクールカウンセラー等とも連携しながら、校内支援会を定期的に開催し、学級担任だけでなく学校体制の中で支援を行う。	要支援児童の対応については、関係機関等も交えて校内支援委員会を定期的に行い、全校体制で臨んでいるが、さらに手厚い支援体制の充実が望まれる。	C	C	支援を要する児童の指導・支援については、さらに専門的な研修を積み、本人や周りの児童へのより適切な対応ができる体制を構築してほしい。
キャリア教育	キャリア教育の年間指導計画に基づき、かかわり合う力、自ら学ぼうとする力の育成を図る。	社会見学あるいは社会科・国語科・総合学習などの学習の中にキャリア教育の視点も踏まえた題材や学習活動を取り入れた。	B	B	学校行事、PTA行事ともに体験的な取り組みを積極的に行っている。
防災教育	緊急事態発生時の予防的な取り組みを推進する。防災教育カリキュラムに則った学習を行うとともに、想定を変えながら避難訓練を実施する。	学校施設の耐震化については、昨年度までに全て終了した。本年度は、高知市から飲料水・非常用トイレ・食糧等の備蓄品が配備された。防災学習や地域と連携した避難訓練も実施している。	A	A	地震対策としては校舎の耐震化、避難訓練、非常時のための備蓄、防災学習の推進等、着実に取り組みが進められている。さらに地域と連携した取り組みを継続してほしい。
地域連携	PTA会合や開かれた学校づくり推進委員会で児童の状況を報告し、学校・保護者・地域の連携を強化する。	PTA行事等では、保護者や地域の協力・支援をいただいて充実した取り組みを行うことができた。また、PTA行事や地域行事に、教職員も積極的に参加できている。代議員会では、学校の取り組みや課題も説明している。	A	A	PTA・地域行事に教職員も積極的に参加し、地域との連携も密接である。メールによる情報発信も有効に機能している。
教職員の資質・能力	効率的・協同的な研修体制を確立する。外部講師を招聘するとともに、職場内で学び合える体制を整える。教職員アの項目「研修体制の確立」において90%以上の肯定評価をめざす。	「教育課程拠点校」指定2年目の研究発表会を開催し、100名近い参加者があった。県外講師からも一定の評価をいただくとともに、県教委から「教育研究実践表彰」も受けた。教職員アの項目「研修」における肯定評価は96.8%だった。	S	S	昨年度から新たに3年間の研究指定を受けたことで、学校ぐるみで児童の言語能力を伸ばす取り組みがさらに推進されている。教育研究実践表彰・小砂丘賞団体賞を受賞したことは大変喜ばしいことである。
校種間連携	潮江地区4校が学力向上・防災教育・人権教育をテーマとした合同の研修会を開催する。また、校区の保育園との情報交換を密に行う。	潮江地区4校が学力向上・防災教育・人権教育をテーマとした合同研修会を開催した。校長が中学校に出向いて講話をしたり、小学生が中学校を訪問して防災学習を行ったりして、積極的な連携を図った。保育・幼稚園とは、新入児に関する情報交換を行った。	A	A	また、外部からの出前授業等も積極的に取り入れ、児童が楽しんで学ぶことができるよう取り組んでいる。
学校活性化	学校外の人材や出前授業等を活用して、体験的な教育活動を積極的に取り入れる。	地域や中・高校、関係機関等の協力を得て、田植えや餅つき、鯉タタキ、起震車、和楽器、交響楽団とのコラボなど多彩な体験的活動を実施。集会や行事においても、児童が主体となるような企画・運営を心掛けている。	A	A	小中連携はより密接になってきているが、本年度から地元の保育園の関係者も開かれた学校づくり推進委員に加わったこともあり、保幼と小学校の連携がさらに進むことが期待される。